

BALLET
DE
CENTRE
CHOREGRAPHIQUE
NATIONAL
LORRAINE
Direction Petter Jacobsson

ロレーヌ国立バレエ団 『トリプルビル』



20 世紀から 21 世紀の舞踊史を体感、フランスを代表するバレエ団のトリプルビル！

2018 年 9 月 21 日 (金) ~22 日 (土)

ロームシアター京都 サウスホール

[本リリースに関するお問合せ先] ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団) 担当:松本、長野
電話:075-771-6051(9:00~17:00) FAX:075-746-3366 E-mail:press@rohmtheatrekyoto.jp

京都会館からロームシアター京都へ。27年ぶりの上演を含めた厳選の3作品を京都で観る

20世紀後半から現代の前衛的な作品の上演に定評があり、ヨーロッパのコンテンポラリーバレエ界を牽引するロレーヌ国立バレエ団が、厳選3作品を上演。ポストモダンダンスの巨匠カニンガム振付『SOUND DANCE』、バレエを脱構築した鬼才フォーサイス振付『STEPTEXT』、いまヨーロッパで最も注目されるベンゴレア／シェニヨー振付の日本初上陸作品『DEVOTED』の3作品は、コンテンポラリーバレエの面白さを楽しめる充実のプログラム。

さらに『STEPTEXT』は1991年『ウィリアム・フォーサイスとフランクフルト・バレエ団 日本公演』として京都会館で上演された歴史を持ち、今回リニューアルオープンしたロームシアター京都に27年ぶりに再上陸します！

日仏交流160周年、京都・パリ友情盟約締結60周年という記念すべき年に京都で行われる公演に、どうぞご期待ください。

いわゆるバレエから一歩進んだ私達の時代に生まれた作品

今回のロレーヌ国立バレエ団の上演作品はバレエに対してのアンチとして生まれた米国モダン・ダンスの重要な振付家マース・カニンガム作品、バレエの「パ」に基づきながらそれをさらに引き延ばしたり、ねじったりすることで発展させてみせたウィリアム・フォーサイス作品、そしてバレエのステップも使いつつより広い文化圏から取り入れた動きを自在に組み合わせて作品世界を構築するセシリア・ベンゴレア&フランソワ・シェニヨー作品。いずれもいわゆるバレエから一歩進んだ私達の時代に生まれた作品です。バレエを踊るための訓練を重ねた身体から生まれる新しい、「現在」の作品は時代と共に移り変わります。バレエは旧来の作品とこうした新しい作品の両方の魅力があってしかるべきもの、というのが今の世界的なバレエの認識です。今回の3作品は日本ではなかなか見られないラインナップというだけではなく、バレエ団としても来日することは稀です。

本公演はフランスの「現在」バレエの最先端に触れるまたとない機会となるでしょう。

<芳賀直子（舞踊史研究家）>



<演目紹介&プロフィール>

出演：

国立振付センターロレーヌバレエ団 Centre Chorégraphique National - Ballet de Lorraine

1968年北仏アミアンで設立されたフランス初の現代作品上演を専門とするバレエ団である。バレエ・テアトル・コンタンポランが1978年ナンシーに移転、バレエ・フランセ・ナンシー、国立ナンシー・ロレーヌ・バレエの改称を経て、1999年国立振付センター（CCN）加入時から現名称。2011年に芸術監督に就任したピーター・ヤコブソンはスウェーデン出身で、元スウェーデン王立バレエ団芸術監督。ダンサー時代に英国でクラシックを、NYでトワイラ・サーブ、マース・カニンガム等ポストモダンを踊った経験を活かし、20世紀バレエの歴史的な作品から現代の実験作まで魅力的なプログラムを提案している。26人のダンサーは堅固なバレエ技術を有し、日本人も活躍している。

『DEVOTED』（2015）



クラブカルチャー、民俗芸能をダンス・アートに混ぜ合わせ、あらゆるタブーに切り込む、いまダンス界で最も熱いアーティスト・デュオのシェニョー&ベンゴレアの振付。バレエの代名詞であるポワント（爪先立ち）技術の刺激的な再解釈が、フィリップ・グラスのミニマルな音楽に溶け合い崇高な次元へ観客を誘う。



セシリア・ベンゴレア&フランソワ・シェニョー

セシリア・ベンゴレア Cecilia Bengolea

ブエノスアイレス生まれ。ブエノスアイレス大学でダンス人類学および美学美術史を専攻。2001年よりパリ在住。2004年にマチルド・モニエが主宰するEx.e.r.ceに参加。

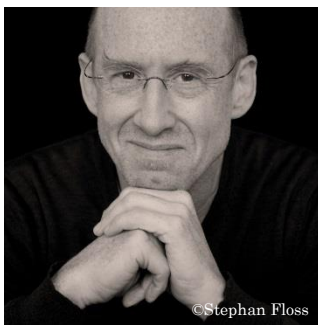
フランソワ・シェニョー François Chaignaud

レンヌ生まれ。パリ国立高等音楽・舞踊学校卒業。2003年以降、ボリス・シャルマツツ、エマニュエル・ユイン、ジル・ジョバン、チアゴ・グエド、アラン・バファードといった様々な振付家やダンサーらとコラボレーションしている。

『STEPTEXT』(1985)



バレエ／ダンス界に革命をもたらした鬼才フォーサイスの初期の名作。
官能的な弦の調べと、意味をはぎ取られたストイックな動き、時折現れるミステリアスな仕草が混然とし強い印象を生む。



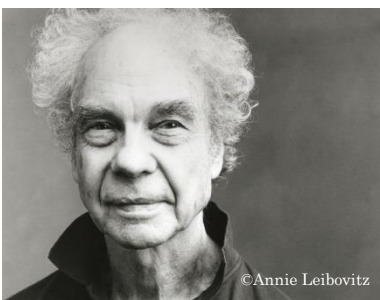
ウィリアム・フォーサイス William Forsythe (1949年～)

1984年、フランクフルト・バレエの芸術監督に就任。2004年のフランクフルト・バレエ解散後、「フォーサイス・カンパニー」を設立。2010年にはベネツィア・ビエンナーレ金獅子賞を受賞している。また、フォーサイスが手がけた作品は、マリインスキー・バレエ、ニューヨーク・シティ・バレエ、サンフランシスコ・バレエ、ロイヤル・バレエ、パリ・オペラ座バレエなど、世界の多くの主要カンパニーのレパートリーとなっている。

『SOUNDANCE』(1973)



NYで展開したポストモダンダンスの巨匠カニンガムの代表作の一つ。モダン・ダンスの感情表現を排除し、音楽と純粹に切り結ぶダンスを追求し、洗練させたカニンガムのスタイルを示す作品。



マース・カニンガム Merce Cunningham (1919年～2009年)

アメリカ合衆国のダンサー、振付家。1937年、シアトルのコーニッシュ・スクールの生徒だったときにジョン・ケージと出会う。39年にはニューヨークへ移り、マーサ・グレアムのダンス・カンパニーに参加する。のちに自作の発表をはじめ、グレアムのカンパニーを脱退したのち、マース・カニンガム舞踊団を結成。ジョン・ケージ、デイヴィッド・チューダー、ゴードン・ムンマ、小杉武久らと共同作業を行った。

<公演概要>

ロレーヌ国立バレエ団「トリプルビル」

日程：

2018年9月21日（金）19:00 開演

9月22日（土）15:00 開演 ※各公演開場は開演の30分前

会場：

ロームシアター京都 サウスホール

演目（上演順）：

『DEVOTED』 振付：セシリア・ベンゴレア & フランソワ・シェニョー

『STEPTEXT』 振付：ウィリアム・フォーサイス

『SOUND DANCE』 振付：マース・カニンガム

チケット料金：

全席指定 一般 6,500円 ユース（25歳以下）4,000円 ※未就学児入場不可

チケット一般発売開始：2018年6月16日（土）10:00～

※先行発売：2018年6月9日（土）10:00～ フレンズ会員（オンライン会員）、Club会員（京都コンサートホール・ロームシアター京都共通の会員制度）・京響友の会会員

チケット取扱：

ロームシアター京都オンラインチケット <https://www.e-get.jp/kyoto/pt/>

ロームシアター京都チケットカウンター（窓口・電話）

TEL.075-746-3201（10:00～19:00 年中無休）

京都コンサートホールチケットカウンター（窓口・電話）

TEL.075-711-3231（10:00～17:00、第1・3月曜休※祝日の場合は翌日）ほか

お問合せ：

ロームシアター京都チケットカウンター 075-746-3201

主催 | ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、京都市

助成 | 文化庁文化芸術振興費補助金（劇場・音楽堂機能強化推進事業）／独立行政法人日本芸術文化振興会、アンスティチュ・フランセ パリ本部、在日フランス大使館／アンスティチュ・フランセ日本